

( 続紙 1 )

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	花 暁波
論文題目	Land Use Change and Livelihood Transition in the China-ASEAN Borderland 中国－ASEAN跨境域における土地利用変化と地域住民の生業転換に関する研究		
(論文内容の要旨)			
<p>中国と東南アジアとの国境は、2000年代になって急速に、道路網等のインフラが整備されるとともに、人やモノの往来に関する制度整備が進んだ。本論文は、これまでの「閉ざされた国境」から「開かれた国境」への変化が跨境地域の地域住民の生業や生活、土地利用システムに与えた影響を、中国とミャンマーの国境地帯を対象として、総合的に考察するとともに、「開かれた国境」が生みつつある課題を指摘することを試みたものである。</p> <p>第1章においては、跨境地域に関する先行研究を踏まえて近年の中国と東南アジアの跨境地域の変容を概観し、本研究の目的と構成を提示している。また第2章においては、跨境地域は歴史的、文化的背景が異なる多民族により構成されていること、隣国との労働力の移動があること、合法的な交易に加えて非合法的な物流も存在すること等により、その生業・土地利用システムはより複合的な要因の影響を受けることを指摘し、それらを地域社会内部の文化－経済－生態の相互作用、一国内の跨境地域とそれ以外の地域の相互作用、国境を跨ぐ地域社会間の相互作用、2国間のより包括的な相互作用に整理したうえで、跨境地域の生業・土地利用システムモデルを本論文の基本的視座として提示している。さらに第3章においては、本論文が対象とする中国とミャンマーの跨境地域の概要を示したうえで、調査の方法と調査項目を紹介している。</p> <p>第4章においては、地域社会内部の文化－経済－生態の相互作用に着目して、「開かれた国境」が土地利用や農業に与えた影響を異なる民族によって構成される2農村を対象とした村落調査に基づいて比較、検討し、新技術や農産物市場へのアクセスが容易な漢族住民が多様な商品作物栽培に積極的に取り組んでいるのに対して、従前、大きな経営規模を有していた少数民族が徐々に耕作放棄しつつあること、この動きを促進した一つの要因は、農地貸借制度の整備を契機として農地の使用权が少数民族から漢族住民に移動したことであることを示し、これが民族間の経済格差を助長していることを指摘した。</p> <p>第5章においては、国境を跨ぐ地域社会間の相互作用や2国間のより包括的な相互作用に着目して、漢族住民による多様な商品作物栽培を支える労働力を分析し、地域住民が農外就業機会を求めて村外へ移出するなかで労働集約的な商品作物栽培を導入することができたのはミャンマー人農業労働者の受け入れを促進したからであることを示している。同時に、これらミャンマー人農業労働者の調達、従前から存在した国</p>			

境を跨ぐ地域社会間のネットワークのみに依拠したものではなく、両国間で新たに整備された労働者受け入れ制度を活用したものであることを示唆した。

第6章においては、一国内の跨境地域とそれ以外の地域の相互作用や2国間のより包括的な相互作用に着目して、中国国内市場向けの熱帯農産物生産が跨境地域の生業・土地利用システムに与えた影響を分析している。中国国内における果物市場の急激な拡大を反映して、中国と東南アジアとの国境地帯では雲南省外からの果物業者によるバナナやスイカ等の栽培が増加している。これに対して、一部の農民は長期契約により農地を果物業者に貸し出し、自らは農外就業を得て離農しつつあるが、残りの農民はより労働集約的な商品作物栽培に自ら取り組み始めており、跨境地域の農民の営農のあり方が二極化する傾向にあることを明らかにした。

第7章においては、国境を跨ぐ地域社会間の相互作用に着目して、跨境地域で非合法的に流通している麻薬が地域住民の生活や生業に与える影響を分析している。とりわけ少数民族によって構成される農村では無視できない数の麻薬患者が存在し、政府は治療プログラムを提供している。現在治療中の住民世帯や治療が終わった住民世帯を対象とした調査に基づいて、麻薬患者は治療後も、在村のままでは麻薬に接する機会が多く再発のリスクが高いこと、そのため、とりわけ若い世代では治療後、夫婦で村外へ出稼ぎに行くことが多いこと、これがその世帯の労働力不足を招き、農業活動を縮小する結果を招いていることを明らかにした。

第8章においては、国境を跨ぐ地域社会間の相互作用や2国間のより包括的な相互作用に着目して、ミャンマーにおける中国市場向けの果物栽培を分析し、それが多様な中国人およびミャンマー人の果物栽培業者や輸送業者に支えられていること、両国間での合意に基づいた輸送手段や市場等のインフラが急速に整備されていることを示している。

第9章においては、跨境地域における生業・土地利用システムが複合的な要因のもとで変容しつつあることを総括するとともに、その動きに内包される民族間格差や労働力移動、社会に悪影響を与えるモノの移動等を踏まえて、多民族によって構成されていることを前提とした土地管理制度や跨境地域の現状を反映した国境ガバナンスの確立の必要性を主張している。